



エッコロ制度を土台に 地域づくり

組合員同士でたすけあうエスコープ大阪独自のしくみである「エッコロ制度」がスタートしてから4年が経ちました。9月
度末現在の加入者は1,283名で、エスコープ大阪の組合員の約1割がエッコロ制度に加入し、通院の付き添いや草引き、電
球の付け替え、子どもの見守りなどのケアを通し、たすけあいをおこなっています。

生活クラブの仲間である生活クラブ生活協同組合大阪(以下、生活クラブ大阪)は、独自の「エッコロ共済」を開始して10
年が経ち、加入者が組合員の過半数を超え、その多くがエッコロ共済を活用しているそうです。そこで、今回は生活クラブ
大阪でエッコロ共済の運営を担っている常任理事の清水啓子さんにお話を伺いました。

(聞き手:福祉担当常務理事 吉田 正美)



生活クラブ生活協同組合大阪
エッコロ制度担当常任理事

清水 啓子さん

加入者が増えたと 保障が充実

吉田 生活クラブ大阪のエッコロ共済
は、この10年でどのように変化してい
きましたか。

清水 10年かけて認知度が上がり、加入
者が増えて掛け金もたくさん集まるよ
うになりました。そこで、それをどう
やって活かそうかということが課題に
なり、みんなから集めたお金をたすけを
必要としている組合員に広く使うため
に、子育て支援の充実と、生協活動をす
る組合員の応援を中心に考えました。
現在、エッコロ共済の収入の約一割
を、見守りが必要とする家族がいる組
合員リーダーのための介護や託児費用の
補助、「子育てひろば」の運営費の助成
(会場費やおもちゃの購入、ひろばス
タッフの養成など)など、子育て支援に
充てています。子育て世代の組合員も
実際に託児などのケアを利用すること
でエッコロ共済を身近に感じることが
でき、たすけあいの輪がさらに広がっ
ています。子育て中の組合員が活動時に
幼稚園や保育園の延長保育が必要とな
る場合には延長保育代金の全額を補助
することができるようになりました。
また、共済掛け金から活動費を支給

し、エッコロ事務局を組合員が活動で
担っています。事務局は組合員ならで
はの目線で、エッコロ共済への相談の対
応をしてくれると好評です。

エッコロで広がる 安心の輪

吉田 生活クラブ大阪では、多くの組
合員がエッコロ共済に参加されています
が、ケアを利用する以外にはどのような
しくみがありますか。

清水 困ったこと(病気)になるまでの予
防と地域で生き生きと暮らすことがで
きるように、健康診断を受けた際の自己
負担金に対しての補助や祝い金制度(出
産祝い・小学校入学祝いなど)もありま
す。また、人と人をつなぐ関係づくりの
ために、エッコロサークルの運営費を助
成しています。その他には、ヨガやアレ
ルギー除去食やリフレッシュできるア
ロマなどをテーマにしたエッコロ講座
も開催しています。講座に集まった人
から、人の輪を広げていきたいと考えて
います。エッコロ共済を通して人の輪
ができれば、何かあっても安心して暮ら
すことができます。「エッコロ共済に
入っていれば安心」という組合員を増や
していきたいです。

エッコロを通して、 地域づくりを考える

吉田 今後どのようなことをすすめてい
こうと思っていますか。

清水 これからの私たちの暮らしを考え
ると人の輪はとても大切です。地域の
人たちが行き交い、小学生も放課後にふ
らつと立ち寄れるような、そんな多世代
の人が自由に集まることのできる居場
所ができればいいなと思います。子ど
も食堂やエッコロ共済と連携する福祉
団体と協力して子どものことや生活の
ことなど何でも相談できる相談窓口な
どもできたらいいですね。そのために、
エッコロ共済掛け金は活用できると思
います。

吉田 エッコロは、生活クラブのそれぞ
れの生協の組合員が自分たちに合った
しくみをつくっていくためのものです。
生活クラブ大阪とエスコープ大阪では
制度内容は異なりますが、エッコロを通
して人のつながりをつくり、地域づくり
をすすめるようという考えは同じですね。
エスコープ大阪でも、10月1日にエッコ
ロ制度を改定し、「エッコログループ」と
いうグループづくりを始めます。困っ
たことが起きても知らない人にエッコ
ロケアをお願いするのは抵抗がありま
す。だからこそエッコログループを作っ
てお茶会をしたり、消費材の試食会をし
たりして、いざという時にたすけあえる
顔見知りをつくさん近くに作ることが
できるようにしたいと思っています。



エコロ制度が変わります



ケア者を見つけやすくするしくみをつくりました

個人配達を利用する組合員が増え、近隣に他の組合員がいるのかわからないという人が増えています。そこをつなぐために、エコロコーディネーターを設置し、より多くの人がエコロ制度を通して、地域のたすけあいの輪に参加できるようにします。

新しい
しくみ①

「エコロコーディネーター」を設置します

近隣に加入者がいない時には、エコロコーディネーターに連絡してください。新たに導入する「できるよ登録」をしている人の中からケア者を探し、紹介します。



新しい
しくみ②

「できるよ登録」を始めます

エコロ制度加入者は「できるよ登録」として、自身ができるケア内容、時間帯、得意なことなどを登録することができます。エコロコーディネーターにケアの依頼があった際に、「できるよ登録」をもとに連絡が届きます(対応できない場合は断ることも可)。組合員本人と生計を共にする家族も登録すればケア者になることができるので、例えば「電球の付け替えを頼みたいのにご近所は高齢の組合員ばかりでお願いできない」という場合でも、そのお子さんにケアをお願いするといったことができるようになります。



アンケートより

- エコロ制度に加入している組合員がわからないので、助け合いができない。
- ケアしてほしい時は自分で直接依頼しないと聞いたので、加入を見送っています。

新しい
しくみ③

「エコログループ」づくりをすすめます

日頃からのコミュニケーションをとることが大切です。近隣のエコロ制度加入者3名以上でエコログループをつくることができます。



エコログループ結成初年度には3,000円の補助金(初年度のみ)があります。補助金の使い方はグループで決めますが、グループのみんなが集まってのお茶会などにも利用できます。そこで顔を合わせ、情報交換し、「何かあったらお願いね」の関係性をつくります。ちょっと困ったときにはグループのメンバーでたすけあいます。もちろん、グループ以外の加入者とのケアも可能です。

ぜひ、班のお友だちとグループ登録をしましょう。

子育て世代も参加しやすいしくみをつくりました

これまでに成立したケアの事例で一番多かったのが高齢の加入者(65歳以上)をサポートするケアでした。今回の改定では、子育て世代ももっとエコロ制度に参加しやすくなるしくみを作りました。

新しい
しくみ①

「託児サポーター」による集団託児を始めます

これまで生協の企画で多人数の託児が必要な時は、外部団体に委託して集団託児をおこなっていましたが、新たに研修を受けた組合員の託児サポーターによる集団託児をスタートします。

＜託児サポーターになろう＞

託児サポーターの登録はエコロ制度の加入者が対象で、エスコープ大阪の企画開催時の集団託児を担います。特別な資格は必要ありませんが、エスコープ大阪が主催する託児サポーター研修の受講が必須となります。



アンケートより

- 若い方が利用できる制度を増やすべきだと思います。
- もっと縦の世代間がエコロ制度を通してニーズを満たせるような助け合い、支え合いが生まれると良いなと思います。

新しい
しくみ②

企画参加時の託児費用をエコロ制度で補助します

子育て中の組合員がさらに生協の企画に参加しやすくなるように、エコロ制度に加入している方の企画参加時の託児費用をエコロ制度が補助します。



エコロ制度で対応できるケアの範囲をひろげます

より多くの「困った」に対応できるように新たなエコロケアを追加しました。

新しい
しくみ①

共同購入の補助ケアを始めます

身体的な理由(高齢、弱視、ケガなど)で手助けを必要とする場合に、注文の代行(注文書の記入や電話、ネット注文など)をおこないます。

新しい
しくみ②

日常生活の「困った」を支えるケアの対象をひろげます

日常生活の困りごとをサポートするケアが受けられるのは、これまで65歳以上の加入者が対象でしたが、65歳未満の加入者も年に1回に限り、事由にかかわらず、ケアを受けられるようになりました。



エコロ制度利用者の声

- 身長が低いので、高いところの作業を手伝ってほしい。
- 注文書の字が小さくて見にくいので、自分で注文書が書けない。
- 急な残業の時に、幼稚園のお迎えをお願いしたい。



みんなでより良い制度に!!

エコロ制度は、私たち組合員の暮らしがより豊かなものになるように、加入者の声で制度内容をつくっていくことができます。今回はもっと多くの組合員が参加しやすい制度にすることをめざして制度内容を改定しました。エコロ制度は3年ごとに見直しをし、必要があれば改定をおこないます。まだエコロ制度に加入していない人はこの機会に加入してください。そうすれば、制度の内容をもっと充実したものにしていくことができます。加入者が増えれば、困った時にたすけあえる仲間も増え、多くの人の「困った」の声に対応できます。一緒にエスコープ大阪のエコロ制度をつくっていきましょう。

消費委員会

『針江げんき米』 稲刈り交流会

9月29日(日)
「針江げんき米栽培グループ」
の圃場
(滋賀県高島市新旭町針江地区)

消費担当理事 岡澤 久子



体験を通して たくさん学びがありました

環境にやさしい米作りに
取り組もうと、1989年

に結成された「針江げんき米栽培グループ」。針江地区には安曇川の伏流水と比良山系からの地下水が流れ、各家庭ではこの湧水を利用した「川端」(かばた)と呼ばれる仕組みを作り、生活用水として古くから活用していて、「平成の名水百選」にも選ばれています。

エスコープ大阪では毎年、田植え、子どもツアー、稲刈りの企画で産地と交流していますが、今回は初めての方も多く、総勢38名が参加しました。

まずは新米の等級検査を見学。検査場では白と黒のお皿にお米をのせて検査する方法などを見ました。子どもたちは『コシヒカリ』と『みずかがみ』はどちらがおいしいですか? など積極的に質問していました。

田んぼでは、日常ではなかなか体験

できない鎌での稲刈りを体験しました。「普段は飽き性の息子が、稲刈りは最後まで夢中になって楽しんでいましたことにびっくりした」「小学6

年生の娘が農家になりたいと言い出したことがきっかけで参加した。稲刈りは最後まで一生懸命に取り組んでいた」など、参加者からたくさん感想がありました。

生産者との昼食交流では、針江の米作りや琵琶湖の環境保全について学びながら、新米をいただきました。子どもたちのアンケートには揃って「ごはんがとてもおいしかった!」とあり、おいしいお米の味を知ってもらえたことをうれしく思いました。『針江げんき米』の産地交流では、自分たちが食べているお米がどのように作られているのか、環境に配慮した農業がどのようなかなどを体験を通して知ることができました。これからもたくさんの方に参加してもらい、貴重な産地の取り組みを伝えていきたいです。

地震大国の日本に原発は建設できません

自然エネルギー大好き委員会
**脱原発
ワークショップ**
8月21日(水)
SAYAKAホール
(大阪狭山市)

自然エネルギー大好き委員
杉之原 かおり



は、さまざまな方法でタービンを回すことで電気を作っています。火力発電は石炭、石油、天然ガスを燃やし、原子力発電はウラン235の核分裂反応の際に発生する熱でお湯を沸かしてタービンを回します。水力発電は水を高い所から低い所へ流す位置エネルギー、風力発電は風の力を利用して回します。発電のしくみを実感するために、小型風力発電機を作るワークショップ

年配の方や子連れの若いお母さんなど、計18名の参加がありました。まず始めに、「原子力発電の基本の『キ』」と題して、原子力発電の発電原理についてわかりやすく説明しました。実は太陽光発電を除くほとんどの発電機

新加入者フォロー企画 第一部「納涼和菓子で夕涼み交流カフェ」 第二部「おもてなし夕食交流会」

8月23日(金)
第一部14:00～16:00/第二部17:00～19:00
クレオ大阪中央(大阪市天王寺区)

大阪市南・中河内地域理事 山古 薫



仲間は今近くにいます! 集まってお話しませんか?

消費材や青果の栽培基準マークなどを説明しました。参加者からはまだ注文したことのない消費材についての質問などがあり、参加者同士で情報を共有することができました。

「夏休みは子どもがいるので参加しづらい」「子どもと一緒に調理や試食がしたい」「日中は仕事があるので夕方の企画も実施してほしい」といった組合員の声に応え、初めて午後に二部構成で開催し、合計で大人9名、子ども18名が参加しました。

第一部は地域パートナーで、和菓子作りを仕事にしている前田さんに教わり、みんなで白玉パフェを作りました。小さな子どもたちもエプロンを着て白玉をコネコネ。白玉とフルーツをそーっと器に盛って完成!生地にかぼちゃと抹茶を練り込んだ白玉は、ほんのりとやさしい色合いです。

試食の際は、カタログを見ながら

第二部は、参加者の皆

さんに毎日の食事づくりから1日でも解放され、ゆったりとした気分夕食を食べてほしいという思いから、地域委員会メンバーが調理した「ガバオライス」と「玉ねぎとかぼちゃのスープ」を食べてもらいながら交流しました。

参加した組合員のほとんどが個人配達を利用しており、近隣の組合員を知らないという方が多くなっています。そんな中、参加者からは「興味や関心が近い組合員と出会えてうれしかった」という声を聞くことができた、日頃の疑問や質問を気軽に話せる交流の場があることを知ってもらう機会となりました。今後も多くの組合員に企画に参加してもらい、利用の継続につなげていきたいです。



もおこないました。ペットボトルで作った風車にうちわで風を当てると発電機につないだLEDライトが点灯し、大人も子どもも大歓声を上げました。

また、2011年の東京電力福島第一原発事故について、発生の経緯と、津波が来る前の地震が原因となった事実を説明しました。東北地方太平洋沖地震を起こしたプレートテクトニクスの原理と世界の震源分布について、世界

地図を用いてわかりやすく説明した時には、小学6年生のお子さんもうなずいてしつかりと聞いていました。震源分布図を見ると日本列島ではどこでも地震が起る可能性があり、原発の建設には適さないことがよくわかりました。

甚大な事故を起こす原子力発電はもうこりごりです。安全な発電の方法はたくさんあります。「生活クラブでんき」の発電は自然エネルギー100%を目指しています。「生活クラブでんき」に切り替えて一緒に未来を変えましょう!

私たちの生産者

<第2回> 株式会社 丸本 神谷 浩二さん

私たちの消費材の生産者を取り上げ、その人物像や消費材・生活クラブへの想いなどを紹介します。



生活クラブの鶏肉「丹精國鶏」の生産者である「(株)丸本」とは、エスコープ大阪が生活クラブに加盟する以前の1976年からのお付き合いです。

神谷さんは、「丹精國鶏」の原料となる国産鶏種「はりま」(以下、はりま)の取り組みが始まった2006年頃は、営業の副担当として関わっておられ、当時は「はりま」のことを全然知らなかったそうです。当時の活動推進委員会「はりま知らせ隊」の組合員にいろいろ教えてもらい、一生懸命「はりま」の利用を推進する組合員の姿にか

月日の流れ～成長～

大学卒業後に入協し、早いもので10年が経ちました。2020年でエスコープ大阪が50周年を迎える時に、組合員さんが築き上げてきたこの生協の職員として携わっていることをうれしく思います。これからも組合員の皆さんと一緒に、より良くしていけるようがんばります。

わが家は同い年の妻と6歳の長女、3歳の長男の4人家族です。自分ではイクメンだと思っ



職員さんが
自己紹介!!

荒矢 祐輔
(32歳)

エスコープ大阪在籍年数10年6ヶ月
[共同購入フロア・泉北支所]

ているので、皆さんと育児のことなどをお話できればと思っています。気軽に声をかけてください。

先日、保育園の運動会がありました。長女にとっては保育園での最後の運動会でした。私も綱引きに参加し、子どもたちに「1番になってね!」と言われて本気でがんばりました。

本気と言えば、現在秋のおさそいキャンペーンに本気で取り組んでいます。私たち職員も多くの方にエスコープ大阪を知っていただくために、配達中に会った方への声かけや飛び込み訪問などおこなっています。もともと組合員を増やしていくために、皆さんのご協力が必要です。お知り合いの方など、ぜひご紹介よろしくお願いします。

なり刺激を受けたそうです。直接消費者の声を聞くことができるエスコープ大阪組合員との交流は、プレッシャーも感じますが日々のやる気につながっているそうです。

プライベートでは2児の父で、休日は家族でキャンプを楽しんでおられるそうです。BBQ検定の資格を持つ神谷さんのおすすめキャンプめしは「ピア缶チキン」。「はりま」はしっかりとした旨み特徴で、丸鶏に塩・こしょうで下味をつけ、ビールの缶を差し込んで豪快に焼くそうです。

これからたくさんさんの組合員に食べてもらうために、供給のチルド化や新たな消費材の提案に積極的に取り組まれています。私たちもしっかりと食べていきたいですね。



第5回
理事会報告 <9月4日>

【7月度決算報告】

- 供給高 2億2,525万円(前年同月比91.9%)
- 組合員数 19,566名(前月比-39)
- 一人あたりの出資金 80,085円

【8月の放射能検査結果】

連合消費材606検体、エスコープ大阪独自の消費材5検体の放射能検査を実施しました。生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

【決議事項】

- ①就業規則の一部変更について
- ②エスコープ大阪サポートセンター常勤、非常勤職員就業規則の一部変更について
- ③エスコープ大阪サポートセンター常勤、非常勤職員賃金規程の一部変更について
- ④「エコロ制度」改定に伴う規程・別表の改定について

【協議事項】

- ①「エコロ制度」改定案に対する各地域委員会の意見集約について
- ②牛乳取り組みまとめ
- ③6月「生活クラブでんき」推進月間まとめ
- ④「上和田有機米生産組合」の精米施設変更提案

【報告承認事項】

- ①福祉事業推進会議の視察への参加に伴う追加支出について
- ②エスコープまつりの進捗状況確認について



エコロ制度 9月度報告
加入者数 1,283名

給 付 状 況	組合員活動を支えるためのケア	0件
	組合員活動中の共同購入品受け取りケア	0件
	加入者本人の入院・通院・在宅療養に伴うケア	4件
	加入者家族の入院・通院・在宅療養に伴うケア	0件
	加入者本人の産前産後のケア	0件
	長期に留守をする時のケア	0件
	リフレッシュのためのケア	0件
	儀式・行事に伴うケア	0件
	高齢の加入者をサポートするケア	8件



エスコープ大阪の子育てひろば

日時	会場
11月20日(水) 10～12時	大阪狭山市立公民館 (河内長野・大阪狭山地域)
11月12日(火) 10～12時	さつき野東集会所(南河内地域)
11月14日(木) 10～12時	泉佐野市立生涯学習センター (泉州地域)
11月26日(火) 10～12時	和泉市コミュニティセンター (泉州地域)
11月1日(金) 10～12時	ファインプラザ大阪(泉北NT地域)

*開催時間内であればいつ来ても、帰ってもOK
*組合員でないお友達との参加もOK *事前申し込みは不要
*参加費100円(大人のみ)をいただきます

編集後記

徳島県にある「(株)丸本」の本社と「オランダ農協」、国産鶏種「はりま」を育てる生産者を訪問しました。丸本では自社や地域内で資源などを循環するだけでなく、将来的には老人ホームや保育園を作ることまで考えておられてとても感心しました。また、年間約2000アイテムの製品を開発しており、その柔軟な発想と行動力に「はりま」を活用した新消費材が登場するのではないかと期待がふくらみました。国産鶏種「はりま」を維持するために、年間200万羽の消費を目指して、しっかり食べていきたいです。(K)

発行:生活協同組合エスコープ大阪 制作:W.Co パックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪

〒590-0151 堺市南区小代727

TEL.072-293-4660 FAX.072-341-0022

https://s-osaka.seikatsuclub.coop/

エスコープ大阪では第6次中期計画として、いろいろなことを生み出すための基礎づくりをすすめていきます。「人が人としていきいきと生きていける持続可能な社会をつくる」ために、またその活動を広げていくためのヒト・コト・モノ・ハコをつくり出します。

前回に引き続き、中期計画の実行方針である「食への取り組みをさらに強化します」という方針に基づきお伝えします。

「食」の自給を目指して「はりま」を食べすすめよう



「はりま」のヒナ鳥



生産農家の瀧本嘉一さん

「はりま」の品種改良を重ね、日本人の食習慣にあった肉付き(もも肉を多く)を維持しつつ育成率を高める改良を目指してくれています。

9月20日～21日に、「はりま」の育成環境や加工場を視察するために、徳島県にある「(株)丸本」と、「はりま」の生産農家の瀧本さんを訪問しま

した。瀧本さんとは14年前の「はりま」導入の時からのお付き合いです。農場には入雛(ヒナを鶏舎に入れること)から16日齢のヒナ5700羽が3棟に分けて飼育されていました。一般的なブロイラーは密飼いで、生産コストを抑えるため約45日で出荷するところ、「はりま」はゆったりとした環境で55日以上飼育されます。丁寧に飼育された「はりま」は旨みも多く、弾力のある食感が特徴です。

国産鶏種「はりま」の 取り組み状況を確認

国産鶏種「はりま」(以下、はりま)は「(独)家畜改良センター兵庫牧場」(以下、兵庫牧場)(兵庫県たつの市)で代々飼われている鶏種で、日本の気候、風土の中で長年にわたって育種改良されてきた、国内で再生産できる唯一のブロイラー種です。現在、日本で飼育されているブロイラーの98%は外国企業から購入したヒナを育てています。エスコープ大阪では種からの国内自給を確立していくために、2006年より「はりま」に取り組んでおり、カタログでは「丹精国鶏」という消費材名で供給しています。

丸本のグループで「はりま」の肥育管理や鶏の解体加工などをおこなっている「オランダ農協協同組合」(以下、オランダ農協)の肥育管理課の田倉さんは「はりま」導入時を振り返り「初回は育成率が良かったけれど、2回目3回目の出荷の時からバタバタと死んでしまい、これはもう無理かと思った」と話してくれました。しかし、瀧本さんの「以前『阿波尾鶏』を導入した時もそうだったように、新しい鶏種が安定するには10年以上かかる。同じ経験をもう一度したいと思う」という言葉を聞き奮起したそうです。その後も飼育方法など試行錯誤を重ね、今の「はりま」につながっています。また、兵庫牧場でも「はりま」の品種改良を重ね、日本人の食習慣にあった肉付き(もも肉を多く)を維持しつつ育成率を高める改良を目指してくれています。

国産鶏種「はりま」とは

「(株)丸本」の工場を視察

「(株)丸本」の工場を視察

瀧本さんのような契約農家や直営農場からオランダ農協が「はりま」を集鳥し、解体処理、袋詰め、出荷までおこないます。一部は「丹精国鶏」の原料として大阪加工センター(堺市中区東山)にも送られます。オランダ農協や丸本では加工品の製造や、商品開発もおこなわれています。生産過程で出た食品残渣や汚泥、鶏糞、解体後の羽などは肥料や飼料(はりまには不使用)に有効利用し、工場で使った水も浄化してから放水するなど徹底した廃棄物の削減と再資源化、環境保全にも取り組んでいます。

「はりま」の育種を維持し安定生産を継続するには、生活クラブ全体で最低でも年間200万羽の消費を目指す必要がありますが、現在約150万羽の消費に留まっています。エスコープ大阪では、全組合員の約30%が「丹精国鶏」を利用していますが、安定した種の国内自給を将来にわたって保障するためには、大勢の組合員の利用がとても重要です。「はりま」をもっともって食べていきたいと思います。

※「阿波尾鶏」…徳島県で飼育されている地鶏。出荷数、シェア共に日本トップクラスの品種。

理事長 北辻 美樹

おたよりネット



「りっぷる」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。配達時に提出、あるいは店舗の専用BOXまで。

200号表紙「自分のことばでエスコープ大阪の魅力を伝えて仲間を増やす」を読んで

紙面モニター Aさん

「おさそい」するのが何かと難しい世の中になりつつあると思いますが、梶川さんの考え方などが具体的に書かれており、このように意志と意欲を持ってやっておられる方がいるのだなと感心しました。「食べる仲間を増やす理由」について、私も日頃思っていることが簡潔にまとめられており参考になります。

200号3面「首長メッセージ取得活動」を読んで

紙面モニター Bさん

せっけん運動のために23市町村役場を訪問し、面談するという活動をおこっていることを初めて知りました。カイワレ実験など子どもにもわかりやすいものを使うのは、人々の心を動かせる良い材料だと感じます。このようなわかりやすい活動がもっと広がっていくと良いなと思いました。

Ripple おたよりネット

(ペンネームOK)

●地域名

●お名前

●組合員コード

●班名

消費材の苦情についてはこの用紙でなく、電話またはメモで。この欄への投稿・ご意見は紙面でご紹介することがあります。

理事會事務局行き
202号(2019.10.28)